

様々な目的に対応した教員研修プログラム、全国で活躍する EARTH 員

【主担当：兵庫県教育委員会】

1 はじめに

兵庫県教育委員会では、阪神・淡路大震災の教訓を生かし、また、震災 10 年の検証を踏まえ、「兵庫の防災教育」として、震災をはじめ、地域の特性に起因する様々な自然災害に対応した防災教育を推進している。

一方、震災 15 年を迎え、阪神・淡路大震災の教訓の風化が危惧される中、東南海、南海地震など今後の災害に備えるためにも防災教育の充実を図る必要がある。

このため、有識者、震災・学校支援チーム（EARTH）研究企画班、県教育委員会教育企画課を構成員とする「防災教育研修プログラム検討委員会」を設置し、兵庫の防災教育の中核を担う震災・学校支援チーム（EARTH）の訓練・研修会及び防災教育推進指導員養成講座の評価・検証を行い、内容の充実・改善を図ることによって、全国の防災教育に資する教職員研修プログラムを作成し、全国に発信することとし、取り組んできた。

2 防災教育推進指導員養成講座プログラムの検証

（「防災教育推進指導員養成講座（初級編～上級編）プログラム」参照：本節末尾）

(1) プログラム見直しのポイント

- ①兵庫の防災教育の 3 つの柱による研修を実施（防災体制、防災教育、心のケア）
- ②防災教育分野を重点化（ボランティア教育、教材開発に関する研修の増加）
- ③興味・関心を持ち、自発的に学ぶ研修を実施（協議や演習の形態の増加）
- ④震災・学校支援チーム（EARTH）員を講師として活用

(2) プログラム素案の実施による検証

平成 20 年度に作成したプログラム素案を、平成 21 年度防災教育推進指導員養成講座〔初級編〕〔中級編〕〔上級編〕で実施し、内容を検討

①兵庫の防災教育の 3 つの柱による研修を実施（防災体制、防災教育、心のケア）

- ・〔初級編〕では基礎的な内容について研修し、〔中級編〕〔上級編〕では専門的知識や実践的スキルを習得できた。

②防災教育分野を重点化

ボランティア教育に関する研修

- ・震災の教訓として、助け合いの心、ボランティア精神の育成を掲げており、〔中級編〕では実際にボランティア活動に参加した高校生等の体験談を聴くことにより、体験を生かした指導方法を学び実践への意欲が高まった。

教材開発に関する研修

- ・防災教育副読本「明日に生きる」の指導案の作成や、効果的な指導方法の検討を通して、震災を知らない子どもたちに震災の教訓を伝えるための防災教

育の在り方について考えを深めることができた。

③興味・関心を持ち、自発的に学ぶ研修を実施（協議や演習の形態の増加）

- ・協議や演習を増やすことにより、意欲的に研修に参加できた。協議の中で受講者が震災をはじめとした災害時の自分の体験を出し合い、災害を身近なものとして受けとめながら、協議を深めることができた。

④震災・学校支援チーム（EARTH）員を講師として活用

- ・「学校の避難所運営方法」「避難所における食の支援方法」などのプログラムは震災当時の状況を踏まえた内容であり、EARTH 員の経験に基づいた話には説得力があり、〔初級編〕〔中級編〕〔上級編〕の各講座において、震災の経験や教訓の語り継ぎができた。

(3)まとめ

- 講座修了後、受講者が EARTH 員となることを前提として、初級・中級・上級の各講座において、「防災体制」「防災教育」「心のケア」の3つの柱に基づき、「兵庫の防災教育」全般にわたって体系的に研修できるプログラムとする。
- 受講者が防災教育のリーダーとしての自覚を高め、実践力を身につけられるよう、演習や協議など参加体験型の研修を拡充する。
- 震災を体験していない受講者が増加する中、震災の教訓を語り継いでいく当事者としての自覚を高め、語る素材を豊かにするため、震災を体験した EARTH 員が講師となる研修を拡充する。
- 演習や協議については全体的に時間不足という感想が多かったため、今後、実施にあたって協議時間の確保や、班別協議の場合の一班あたりの人数の調整など、工夫・改善を図る。

3 震災・学校支援チーム（EARTH）訓練・研修会プログラムの体系及び内容の検証 （「震災・学校支援チーム（EARTH）訓練・研修会プログラム」参照：本節末尾）

(1)プログラム作成のポイント

- ①平成20年度に新たに研修プログラムを作成
- ②「兵庫の防災教育」の3つの柱による訓練・研修会を実施（防災体制、防災教育、心のケア）
- ③興味・関心を持ち、自発的に学ぶ研修を実施（協議や演習の形態の増加）
- ④震災・学校支援チーム（EARTH）員を講師として活用
- ⑤第1回訓練・研修会では、防災教育分野を重点化（震災体験の継承、教材開発、ボランティアの項目を充実）
- ⑥第2回訓練・研修会では、災害派遣された場合に被災した学校に対して「避難所運営の支援」「早期の学校再開のための助言」「災害時の食についての助言」「児童生徒の心のケア」を行う実践力を高める研修を重点化（班別演習を充実）

(2) プログラム素案の実施による検証

②兵庫の防災教育の3つの柱による訓練・研修会を実施（防災体制、防災教育、心のケア）

- ・3つの柱を踏まえた体系的な訓練・研修を受講することにより、自分の所属する班のことだけでなく、兵庫の防災教育全体について理解を深めることができた。

③興味・関心を持ち、自発的に学ぶ研修を実施（協議や演習の形態の増加）

- ・協議や演習の中で、受講者が互いに活発な意見交換をすることで、防災教育実践のアイデアを得ることができ、取組への意欲が高まった。

④震災・学校支援チーム（EARTH）員の活用

- ・EARTH員による講義や協議、演習は、自分にもできることとして主体的に受け止めることができた。
- ・講師を務めることで、EARTH員としての経験が生かされ、やりがいを感じるとともに、県外等への講師派遣に対応する自信につながる。

⑤第1回訓練・研修会では防災教育分野を重点化（震災体験の継承、教材開発、ボランティアの項目を充実）

- ・震災当時、避難所運営にあたったEARTH員による「震災の教訓の語り継ぎ」の講義を聞き、当時の学校の状況が具体的にわかり、防災教育の中で子どもたちに震災について語る材料が豊富になった。

⑥第2回訓練・研修会では実践力を高める班別演習を充実

淡路地区で開催された県合同防災訓練において、「避難所運営について」「災害時の食の支援について」「心のケア授業」を3会場で実施。

- ・小学生を対象とした心のケアの授業では、低学年、中学年、高学年で同じ教材を使った実践を行い、発達の段階に応じた指導方法の工夫という点で成果があった。
- ・訓練に参加したEARTH員全員が、小学生を対象とした心のケアの授業、地域住民への避難所運営や災害時の食の支援についての講義のいずれかで講師を務めたことが今後の活動の自信につながる。

(3)まとめ

- EARTH員が主体的に研修に参加し実践力を高められるよう、必修項目を精選し、演習、協議、実践発表を増やす。
- 兵庫の防災教育の3つの柱に対応する必修項目として「災害派遣シミュレーション」「震災の教訓の語り継ぎ」「被災児童生徒等の心のケア」を設定する。
- 復興支援派遣や講師派遣での活動について具体的に知り、派遣に対応できる実践力と自信を高めるため、必修項目として「復興支援派遣実践発表」「講師派遣実践発表」「EARTH員の責務」を設定する。
- 派遣に対応できる実践力と自信を高めるため、第2回訓練研修会では、できるだけ多くのEARTH員が実際に講師として児童生徒を対象とした防災授

業や地域住民等を対象とした講師を務める機会を設ける。

4 防災教育に係る教職員研修プログラムについて

防災教育推進指導員養成講座及び震災・学校支援チーム（EARTH）訓練・研修会のプログラムは、EARTH 員の養成及び実践力の向上のため、「兵庫の防災教育」全般について体系的に修得することをねらいとしているが、その一部を取り出して研修を実施しても成果が得られるよう事例集を作成した。

各学校の実態に応じて1コマを取り出して校内研修を実施したり、一つの柱を取り出して系統的にリーダー養成のための研修を実施するなど、様々な活用方法が可能なように工夫している。

事例集は、各都道府県教育委員会に配布するとともに、兵庫県教育委員会HPに掲載し、全国に発信していくこととしている。

5 全国で活躍する EARTH 員

震災・学校支援チーム（EARTH）は、震災時に受けた全国からの支援に報い、国内外で発生した地震等の災害に対応するため、震災時に被災地の学校で避難所運営に携わった教職員などが中心となって学校再開を支援する教職員の組織として平成12年4月に創設された。

EARTH 員は、地震等の大規模災害に見舞われた被災地の教育復興支援に派遣されるとともに教職員等を対象とした研修会等の講師として、阪神・淡路大震災の経験や教訓を語り伝え、兵庫の防災教育の取組について発信している。

平成18年度に、EARTH 員の復興支援派遣及び講師派遣に関する派遣システムを確立し、県外、さらには海外へも積極的に派遣を行っている。

この派遣システムを活用し、本事業の成果を全国に発信し、防災教育の推進に寄与していきたい。

(参考)

○災害派遣

新潟県中越沖地震(H19)、中国四川大地震復興支援—こころのケア人材育成プロジェクト(H21.2、H21.4、H21.7、H22.1)、台風9号による佐用町水害(H21)

○講師派遣

長野県(H19)、文部科学省(H19)、千葉県(H19)、徳島県(H19)、高知県(H19,20)、滋賀県(H20,21)、名古屋市天白区(H19,20,21)、京都府(H20)、青森県(H19,20)、三重県(H20)、兵庫県青少年赤十字研究会(H21)

防災教育推進指導員養成講座(初級編～上級編)プログラム

すべて必修(毎年実施)

今年度の検証において、EARTH員が講師を務めたコマ

	導入	防災体制		防災教育		心のケア	まとめ
		危機管理	防災訓練	教材開発	ボランティア	心のケア	
初級編	【講義】 兵庫の防災教育	【演習】 学校の避難所運営方法	【演習】 防災訓練の実践方法	【演習】 副読本、学習資料等の活用	【講義】 災害ボランティア基礎知識	【講義】 心のケア基礎知識	
	兵庫の防災教育についてその理念及び内容について学ぶ	学校が避難所となった時の避難所開設区域や開設手順、避難所運営のルール作りについて理解する	実践的な防災訓練を学校で推進するためのノウハウを学ぶ	副読本「明日に生きる」、学習資料「災害からいのちを守るために」の作成過程を知り、各学校で活用できる力を養う	ボランティア活動の意義や災害ボランティア活動に参加するときの最低限の知識、心構えや子どもたちにボランティアの大切さを教えるときの基本的な考え方を理解する	被災児童生徒の心の状況を理解し、教師としての対応を学ぶ	
中級編		【講義】 兵庫県の防災体制	【演習】 救急救命法	【演習】 教材を活用した防災教育	【発表・協議】 ボランティア実践発表	【演習】 心のケア授業	
		兵庫県の危機管理方法、防災情報システム等を学び、学校の防災体制にいかす	自分の命を守る方法を理解するとともに災害時に児童生徒に正しい救命を行う力を養う	学校で、防災教材を活用した防災学習を行う時の指導の工夫や教材の開発方法について学ぶ	ボランティア活動に参加した児童生徒等の発表を聞き、ボランティア活動の留意点や成果などについて協議することにより、ボランティア活動を指導する時の留意点や指導方法を学ぶ	不安や心配が大きなストレスを生み、心身に影響を及ぼすことを理解し、ストレスの解消方法を正しく身につけて、過去のつらい体験やこれからの困難を自分にとってプラスに転換し、よりよい自分を築く態度を育てる。また、被災後の教師支援の授業として「心の授業」の実際を学ぶ	
上級編		【演習】 被災した学校の早期再開の方法	【講義】 自主防災組織の役割	【協議】 防災教育推進の工夫	【講義】 ボランティアコーディネーター基礎知識	【演習】 心のケア発展知識	【講義】 防災教育推進指導員の責務
		学校が避難所となった時の学校の早期再開までの対応策を理解する	災害時に学校が避難所となった時に円滑な運営や学校の早期再開のための地域との連携、地域と連携した防災訓練の方法等について理解する	防災教育を推進する上での課題について、技術だけではなく、その理念、教育への位置づけ、市民生活への位置づけなどを総合的に理解し、その解決方法を協議する。	ボランティアコーディネーターの役割を学び、災害時における学校のボランティアの受入、要請、調整方法を学ぶ	被災児童生徒等の事例をもとに、今後の災害時に教師ができる被災児童生徒等への対応方法を学ぶ	各学校、各地域で兵庫の防災教育を推進していく役割や方法を理解する
		【演習】 避難所における食の支援方法		【講義】 各教科における防災教育			
		学校が避難所となった時の食の支援について理解する		地域の災害特性や災害発生メカニズムについて理解するとともに、各教科からアプローチの方法を学び、防災教育を多角的に見ることが出来る力を養う			

防災教育支援事業成果報告会

様々な目的に対応した教員研修プログラム・全国で活躍するEARTH員

兵庫県教育委員会

「兵庫の防災教育」の推進

- 学校における防災教育の充実
- 学校防災体制の充実
- 心のケアの充実

平成7年 防災教育検討委員会提言
平成16年 復興10年委員会総括検証・提言

震災・学校支援チーム(EARTH)

Emergency And Rescue Team by school staff in Hyogo

- 平成12年4月1日結成
- 防災についての専門的知識と実践的対応能力を備えた教職員チーム
- 防災教育推進のリーダーとして研修会や防災訓練の講師等を務める
- 災害時には、要請に基づき被災地の学校へ派遣され、教育復興、被災児童生徒の心のケアなどを支援する

教員研修プログラム

- 防災教育推進指導員養成講座

震災の教訓を踏まえ、防災教育の充実や学校防災体制の充実とともに心のケアの対応ができる防災教育推進指導員を計画的・継続的に養成することで、長期的展望に立った防災教育の推進に資する

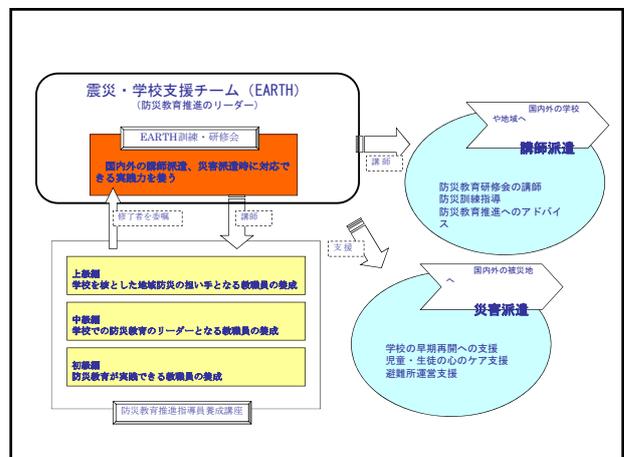
- [初級編]防災教育が実践できる教職員の養成
- [中級編]学校での防災教育のリーダーとなる教職員の養成
- [上級編]学校を核として地域防災の担い手となる教職員の養成

教員研修プログラム

- 震災・学校支援チーム(EARTH)訓練・研修会

防災教育及び災害派遣時の学校の教育復興支援についての専門的知識と実践的対応能力の向上を図る

- 第1回訓練・研修会・県立教育研修所
- 第2回訓練・研修会・地区別で実施



防災教育推進指導員養成講座 プログラムの検証

- ①兵庫の防災教育の3つの柱による研修を実施(防災体制、防災教育、心のケア)
- ②防災教育分野を重点化(ボランティア教育、教材開発などに関する研修の増加)
- ③興味・関心を持ち自発的に学ぶ研修を実施(協議や演習などの形態の増加)
- ④震災・学校支援チーム(EARTH)員を講師として活用

防災教育推進指導員養成講座(中級編-上級編)プログラム (「7」の教育に関する委員の研修(4)並みの平日)

すべて必修(指導員)

導入	防災体制	防災教育	心のケア	まとめ
【1】 兵庫の防災教育 の3つの柱による研修 について学ぶ(2 コマ(1コマ25 分))	【1】 防災体制の学習方法 (1)防災体制の学習方法 について学ぶ(2 コマ(1コマ25 分))	【2】 防災教育の学習方法 (1)防災教育の学習方法 について学ぶ(2 コマ(1コマ25 分))	【3】 心のケアの学習方法 (1)心のケアの学習方法 について学ぶ(2 コマ(1コマ25 分))	【4】 まとめ
【2】 防災教育分野を重点化 する研修の増加 について学ぶ(2 コマ(1コマ25 分))	【5】 ボランティア教育の学習方法 (1)ボランティア教育の学習方法 について学ぶ(2 コマ(1コマ25 分))	【6】 教材開発の学習方法 (1)教材開発の学習方法 について学ぶ(2 コマ(1コマ25 分))	【7】 心のケアの学習方法 (1)心のケアの学習方法 について学ぶ(2 コマ(1コマ25 分))	【8】 まとめ
【3】 興味・関心を持ち自発的に学ぶ 研修の増加について学ぶ(2 コマ(1コマ25 分))	【9】 協議や演習の学習方法 (1)協議や演習の学習方法 について学ぶ(2 コマ(1コマ25 分))	【10】 EARTH員を講師として活用 する研修の増加について学ぶ(2 コマ(1コマ25 分))	【11】 心のケアの学習方法 (1)心のケアの学習方法 について学ぶ(2 コマ(1コマ25 分))	【12】 まとめ

- ③興味・関心を持ち自発的に学ぶ研修を実施

協議や演習の形態の増加
(平成21年度21コマ中11コマ)



受講者が災害時の自分の体験を出し合い、
災害を身近なものとして受け止めながら協議
を深めることができた

- ④EARTH員を講師として活用

- 「学校の避難所運営方法」
「避難所における食の支援方法」など



EARTH員の経験に基づいた話には説得力
があり、震災の経験や教訓の語り継ぎができた

研修風景



【中級編】心のケア授業(成果物:紙芝居の一コマ)



震災・学校支援チーム(EARTH) 訓練・研修会プログラムの検証

- ①平成20年度に新たに研修プログラムを作成
- ②兵庫の防災教育の3つの柱による訓練・研修会を実施(防災体制・防災教育・心のケア)
- ③興味・関心を持ち自発的に学ぶ研修を実施(協議や演習の形態の増加)
- ④震災・学校支援チーム(EARTH)員の講師としての活用
- ⑤第1回訓練・研修会・防災教育分野を重点化
- ⑥第2回訓練・研修会・災害派遣に対応できる実践力を高める研修を重点化

③興味・関心を持ち自発的に研修を実施

協議や演習の形態の増加
(平成21年度8コマ中4コマ)



受講者が互いに活発な意見交換をすることで防災教育実践のアイデアを得ることができ、意欲が高まった

④EARTH員を講師として活用

- EARTH員による講義等は自分にもできることとして主体的に受け止めることができた
- EARTH員としての経験が生かされ、やりがいを感じ、講師派遣に対応する自信につながる

⑤第1回訓練・研修会・防災教育分野を重点化(震災体験の継承、教材開発等)

- 震災体験の継承
震災当時、避難所運営にあたったEARTH員による「震災の教訓の語り継ぎ」の講義を聴き、当時の学校の状況が具体的に分かり、子どもたちに震災について語る材料が豊富になった

⑥第2回訓練・研修会・実践力向上

淡路地区合同防災訓練で実施

- 「避難所運営について」「災害時の食の支援」「心のケア授業」のいずれかの講師を実施
- 「心のケア授業」(対象:小学生)
同じ教材を使って、低学年、中学年、高学年と発達段階に応じた指導を実践

EARTH訓練・研修会(避難所運営について地域住民へ説明)



